

様式 5

西海ブロック推進会議漁業資源・海洋環境部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1 開催日時及び場所 日時 平成 22 年 11 月 12 日 (木) 13:30~16:50  
場所 西海区水産研究所 大会議室

2 出席者所属機関及び人数 11 機関 29 名

3 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開 会	西海区水産研究所東シナ海漁業資源部長が開会を宣言。
2. 挨 拶	西海区水産研究所所長から最近の情勢および部会の趣旨などについて説明された。
3. 座長の選出	西海区水産研究所東シナ海海洋環境部長を座長に選出した。
4. 協議事項	
1) 研究開発の実施状況に関すること	各県および西海区水産研究所の研究課題を一覧表として提示するとともに、本年度実施課題（特に重点課題）についてそれぞれ説明を行い、意見交換した。
2) 研究開発の成果に関すること	<p>漁業資源分野の成果が 2 件、海洋環境分野の成果が 1 件提出され、議論を行った。その結果下記の通りとなった。</p> <p>ア) マサバ・ゴマサバの再生産成功率を用いた再生産関係の解析（西海区水産研究所）は、図および図説の表現に微修正を加えることとし、部会として承認した。</p> <p>イ) ナミハタ産卵集群の由来推定と保護の取り組み（西海区水産研究所）は用いている写真を本文説明を補強するようなグラフに変更する可能性を検討することとしつつ、部会として承認した。</p> <p>ウ) 長江起源水による東シナ海生態系の変調把握に関する研究（西海区水産研究所）は一部図の変更とともに、文章表現をわかりやすく改訂することとして、部会として承認した。</p> <p>なお、協議に際して、これらの成果を公表する対象をどこに想定しているかという点について、確認が行われた。</p>

<p>3) 研究開発のニーズと具体的な取り組みに関すること</p>	<p>平成21年度までの研究開発ニーズは全て対応済みであることを確認した。平成22年度については、山口県水産研究センターから2件の研究開発ニーズについて提案があり、対応方針(案)について協議した。「アマダイ類の資源評価精度の向上」については、県が実施している資源回復計画において、県としてどのような情報を必要としているか西海水研と連絡を取り合うこととして、西海水研としてはデータ使用許諾等に配慮しつつ、適宜協力することとした。また、「黒潮と対馬海流との関係の解明」については、対馬暖流の実体(イメージ)、対馬暖流と西海ブロック漁海況モニタリング定線との位置関係、西海ブロック全体で取り組める解析例について説明した。西海水研・海洋動態研究室を窓口として、各県の海況担当者と連携し、解析方法等を検討することとなった。</p>
<p>4) その他必要と認められる事項に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西海ブロック漁海況モニタリング調査の現状」に関して、各県の漁海況モニタリング調査の実施概要と予算背景についてのアンケート調査結果を元に西海水研が紹介した。各県とも漁海況関係の予算が縮減される中、できる限りの調整を図り、調査の変更を最小限に止めたいとのことであった。</li> </ul>
<p>5. その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度水産庁予算をめぐる情勢について説明した。</li> <li>・開発調査センター副所長から、同センターの業務紹介と今後想定される連携協力についての説明がなされた。</li> </ul>
<p>6. 閉会</p>	<p>西海区水産研究所東シナ海漁業資源部長が閉会を宣言。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

議事次第及び出席者名簿を添付